

N O	教 科	科 目 名	単 位 数	必修・選択の別
21	家 庭	家庭総合	2 / 4 (2年次まで継続履修)	必履修
開講年次	選択群	系 列	使 用 教 科 書 ・ 教 材	
2	な し	な し	教科書 家庭総合(実教出版) 副教材 生活学N a v i 資料+成分表(実教出版)	
目 標				
生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
知識及び技能		思考力、表現力、判断力		学びに向かう力、人間性
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身につけるようにする。		家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。		様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。
単 元 ・ 項 目	学 習 内 容		到 達 度 目 標	
前 期	人とかかわって生きる 「子どもとかかわる」	・子どもを知る ・発達のすばらしさ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期は人間の発達段階において重要で、発育・発達には一定の順序と共通性があることがわかる。</li> <li>・乳幼児期は、その発達段階に応じた親の働きかけや人とのかわりが重要であることがわかる。</li> <li>・保育への関心をもち、子どもの発達の実際の姿がわかる。</li> </ul>	
	生活をつくる 「衣生活をつくる」	・人と衣服のかかわり ・衣服の機能 ・衣服の素材を見よう ・衣服の管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衣服の変遷に関心をもち、和服や洋服の構成上の特徴や被服材料、着装の特徴がわかる。</li> <li>・心地よい被服が、体格や体型、身体の動きに合っており、着用目的に適していることがわかる。</li> <li>・健康と安全・資源と有効利用の観点から被服の入手と活用、手入れ、廃棄までの被服計画の必要性がわかる。</li> </ul>	
	実践活動 「ホームプロジェクト」	・ホームプロジェクト ・発表と評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活に関心をもち、生活課題を見つけ解決できる。</li> <li>・実践内容をレポートや発表をとおして説明できる。</li> </ul>	
後 期	「子どもとかかわる」	・親になることを考えるよう ・子どもの生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親とのかかわりが将来の人間関係の基礎となることや、社会的自立には発達に応じて社会的な規範を身に付けさせることが親の重要な役割であることがわかる。</li> <li>・子どもの生活については、基本的な生活習慣の形成、食事や衣服、健康管理と安全などの概要がわかる。</li> <li>・遊びは子どもの生活の大部分を占めており、遊びを通して心身の発達や健康の保持増進がされることがわかる。</li> </ul>	
	「住生活をつくる」	・人と住まいのかかわりと住まい ・住まいを計画する ・健康的な住まい環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族の生活の場としての住居の条件や、家族構成やライフステージの変化と住要求の関係についてわかる。</li> <li>・安全で快適、健康で耐久性のある住居の機能がわかる。</li> <li>・平面図等を活用し住空間や住生活を考えることができる。</li> <li>・安全性・保健性・利便性・快適性・持続可能性の面から住宅内部や周辺の環境に配慮した快適な居住について関心をもち、安心して住める環境を考えている。</li> </ul>	
取得可能な検定や資格				
なし				